新組地区名所・見どころ

A 長岡市北越戊辰戦争伝承館

大黒町に長岡市北越戊辰戦争伝承館が平成24年開館した。越後における最も激しい戦いは、長岡城が再落城するまで約2ヶ月間続いた。 伝承館には、当時の貴重な資料や地域を紹介するコーナーがある。



C 戊辰の役供養塔

激戦地であった大黒村では、終戦と共 に帰村した村人が官軍、同盟軍の区分 なく死体を埋葬し、大黒神社の境内に 「戊辰の役供養塔」を建て150数年過ぎ た現在でも毎年慰霊祭を行っている。



B 大黒古戦場パーク

大黒町の古戦場パークには、戊辰戦争70年にあたる昭和12年に村人13人により、山本五十六元帥(当時中将)の揮毫した「戊辰戦蹟記念碑」が建立されている。





D戦功良勇士居士の碑

西照寺には、戊辰の役で亡くなった戦病死者(長岡藩14人・米沢藩9人・会津藩3人・龍岡藩1人)の墓がある。西照寺は戊辰の役で焼失したが門前の銀杏の樹だけは残った。



D 加賀藩士の墓

戦争が終ると官軍は、中之島・見附・与板などの戦闘地域から遺体を集めて、押切新田の北方の畑に埋葬した。これを官軍塚と呼び当時は多くの墓があったが、今は、加賀藩士4人の名が刻まれた墓石が1基だけ西照寺墓地に移設されている。



D 長岡藩士 渋木成三郎の墓

渋木は、長岡城下に潜入し、油断している官軍の動静を河井継之助に報告した。 奇襲作戦である八丁沖の渡河を決行する有力な情報であった。長岡城再落城のとき負傷して自害した。宝珠院も戦火で焼失した日であった。



P 割元庄屋清水家

戊辰戦争では同盟軍の仮本営がおかれ前線の重要な拠点となった。長岡城再落城の時には、四ツ屋村は11軒が焼かれ物心ともに大きな被害をこうむったが村の再生に尽力した。多くの古文書が保存されている。



G 長谷川泰生家跡

幼少のころから聡明で西洋医学を学び明治9年済生学舎を設立し、吉岡弥生や野口英世など多くの西洋医を輩出した。衆議院議員を3期務め、明治31年には内務省衛生局長に就任し下水道法の制定に貢献した。



| 大庄屋 安藤林泉家跡と明治天皇記恩碑

戊辰の役で官軍の陣屋となり、戦禍 にあってすべて焼失した。明治11年9 月明治天皇の北陸巡幸の際には、戊 辰戦争の激戦地であったことから 巡幸の休息所となった。屋敷跡には 岩倉具視題筆の記恩碑がある。



Ⅱ おくに地蔵

安藤林泉の子「おくに」は、まれに見る美 少女として評判が高かったが5歳にして この世を去った。可愛い我が子を亡くし た哀惜の念からお地蔵様を建立し、「お くに地蔵」と名付けて供養した。現在も 多くの人がお参りする。



丁 猿橋と津留番所跡

猿橋は、村松藩の殿様が参勤交代の時に利用するなど、古志と蒲原を結ぶ交通の要所で猿橋川に架けられた唯一の橋である。津留番所は、藩の境や領内の交通と物流の要所に設けられた川の関所で猿橋のたもとにあった。



K 戊辰戦争記念碑

福島村には、官軍の富山藩の本陣があった。6月22日の福島夜襲戦では、21軒も焼かれ村人は長岡の侍を恨んだという。この苦難の出来事を忘れず、忠義を重んじて戦死した者を弔って記念碑が建立された。



「」 貞心尼像と閻魔堂

貞心尼は、文政10年(1827年)の春に閻魔堂に移り、その秋良寛とはじめて出会う。良寛70歳・貞心尼30歳の時のことであった。5年後に良寛は亡くなったが、良寛の歌を集め「蓮の露」を作り歌人としての良寛を世に広めた。



